

2025～26年度 RI第2650地区

創立 昭和36年6月28日
承認 昭和36年8月 3日

勝山ロータリークラブ週報

例会日 毎週火曜日 12:30～13:30
 例会場 勝山市市民交流センター
 〒911-0811 福井県勝山市片瀬町1丁目402番地
 TEL 0779-87-7761 FAX 0779-87-7760
 URL : <https://rid2650.gr.jp/club-katsuyama>
 Email:katsuyamarc@gmail.com
 ■会長 滝川 博則 ■幹事 辻 利津子
 編集発行・文責 公共イメージ委員会

会長メッセージ

～ 縁（えにし）を継なぐ ～



第3113回 例会 (2月17日)

●会長スピーチ

会長 滝川 博則



皆さん、こんにちは。
 現在開催されているオリンピック。毎朝届くメダル速報に、元気をもらっている方も多いのではないのでしょうか。
 私自身、特にスノーボード競技の人間離れた技の数々には、ど肝を抜かれております。

あの空中での回転や着地の精度は、もはや「スポーツ」という言葉だけでは足りないのではないかと。新しいネーミングが必要ではないかと思うほどです。

命がけて挑戦する姿は、私たちに勇気と感動を与えてくれます。

さて、この冬のオリンピック効果は、間違いなく各地のウィンタースポーツにも好影響を与えているのではないのでしょうか。わが町のスキージャンプ勝山も、その一つではないかと思えます。

そして勝山には、スキージャンプだけでなく、福井県立恐竜博物館、白山平泉寺、越前大仏といった、福井県を代表する観光資源があります。

特に注目すべきは、その観光客が今や世界規模になっているという点です。

活動センター前にも多くの外国人観光客の姿が見られ、コンビニや街中でも海外の言葉が聞こえてくる。

ほんの数年前とは、まちの景色が大きく変わりました。先日、鷺田さんのご息様から伺いましたが、最近「観光地を見る」のではなく、「勝山でしかできない体験」を求める外国人のニーズが高まっているとのことです。

観光が“場所”から“地域の暮らしや体験”へと広がっている。これは非常に喜ばしい変化だと思います。観光が地域の本来の魅力に波及し、人と人との交流を生み、新たな価値を創り出していく。

本日は、その牽引役である観光まちづくりの今井さんのお話を伺えることを、大変楽しみにしております。今日の卓話を通じて、私たち自身も「勝山の可能性」を改めて感じる機会になればと思います。

●幹事報告

幹事 辻 利津子

○例会終了後、理事役員会を開催します。

●出席報告

山内 智子

2月17日	欠席4名	80%
2月10日	欠席6名	70%

●ニコニコ報告

笠松 誠一

届出欠席 織田昌弘・幅田浩二

会員のコーナー

飯田ひとみ会員

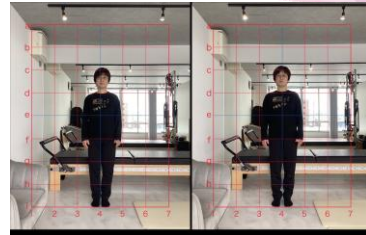
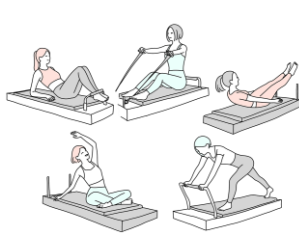
ピラティスを始めました。まだ3回だけですが…

ピラティスとは骨格や筋肉を意識しながら身体の深層部にあるインナーマッスルを鍛え身体全体のバランスを整えてくれるエクササイズです。

スタッフ全員が作業療法士や理学療法士の資格を持ってリハビリ感覚で来ている人もいます。

途中で腕を上げると片方だけビヨンと長くなっていたり、腰がらくになったり、体幹が整う気がします。

まだまだ身に付きませんが人生100年健康寿命のための定期メンテナンスをしていこうと思います。



本日 プログラム	ゲスト卓話 勝山市教育長 油谷 泉氏	3月3日 プログラム	ゲスト卓話 吉川 壽一氏	3月10日 プログラム	ゲスト卓話 シルバー人材センター 四谷 昌則氏	3月17日 プログラム	ゲスト卓話 (株)パシオン
-------------	--------------------------	---------------	-----------------	----------------	-------------------------------	----------------	------------------

ゲスト卓話

勝山市観光まちづくり株式会社について

勝山DMO マネージャー 今井 三偉 氏



【DMOの定義と特徴】

勝山市観光まちづくり(株)(勝山DMO)は国認定の観光地域づくり法人で、自治体補助に依存せず自主・自己資金で運営する稀有なモデルです。道の駅の指定管理料0円での受託など収益責任型の体制を採用し、年間約4~5億円の売上で自立運営を確立しています。

【勝山市の観光資源】

勝山市には世界・日本最大級の資源が自動車ですら10分圏内に集積しています。福井県立恐竜博物館、スキージャム勝山、越前大仏、白山平泉寺、勝山城などの核資源が近接しています。

【需要動向と交通インフラ効果】

1990年代以降、スキージャム開業と恐竜博物館開館を契機に観光客数は右肩上がりが増加しています。

北陸新幹線延伸や中部縦貫道の整備により成長ポテンシャルは高く、来訪は近畿・東海圏中心で、延伸後も自動車来訪が多数派です。

【宿泊の課題と機会】

市内宿泊シェアは約4%に留まり、客室不足によりハイシーズンのADRが過去最高を更新しています。

少室数・高付加価値のコンセプト宿など新設余地が大きく、星野リゾートの参入を好機として、質的拡充と周遊促進により「泊まらない」課題の解消を目指します。

【来訪者構成とターゲティング】

30~50代が来訪者の75%超を占め、恐竜コンテンツが若年・ファミリー層を惹きつけています。

恐竜が好きな子どもを主要ターゲットに据えた「恐竜アドベンチャー」コンセプトで、小売・体験の再設計を進め、教育的要素を取り入れたプログラム連携を模索しています。

【地域の現状と課題】

福井県勝山市は、1987年からの約40年間で人口が約3万人から2万1千人弱へと3分の1が減少しました。

特に生産年齢人口の減少は深刻で、2030年には1万人を切ると予測されており、街の維持自体が困難になるという危機感があります。

また、全国的な認知度調査では、恐竜博物館の知名度は高いものの、勝山市自体の認知度は低いという課題も浮き彫りになっています。

【ミッションや理念】

ミッションは「地域に落ちるお金を増やすこと」であり、人口減の現実を受け入れつつ地域の稼ぐ力を最大化し、勝山を選ばれる場所にすることです。

観光は目的ではなく外需を取り込むための手段で、一次産業や流通、飲食、体験を横断して連動させる理念と整合しています。

【成果と実績】

SNS訴求(大仏前の雲海演出等)を通じ、2022年4-6月に外国人24倍、7-9月に20倍の伸び率を記録し、全国2位の伸び率を達成しました。

恐竜博物館前店舗のターゲット・コンセプト転換と品揃え最適化により、店舗売上は対象区間で2億円から4億円へ拡大しています。

【具体的な取り組みとアクション】

地域の課題をビジネスで解決するため、多岐にわたる事業を展開しています。

1. 農林水産業の活性化

伝統野菜「みょうきんナス」の維持や、ご当地サーモン「山のサーモン」の商品開発を進めています。

2. 一次産業の拠点創設

2023年10月に「勝山青果市場」を設立し、地場産品の安定供給と地産地消の実現を目指しています。

3. 新規飲食事業の展開

観光客のニーズに応え、既存店と競合しないパンケーキを主力としたカフェ「MOOI」を開業しました。

【課題解決へのアプローチ：観光による経済活性化】

人口減少を食い止めることが困難であるとの認識のもと、地域の事業者と協力し「一人当たりのGDP」を向上させることを目指しています。

その手段として観光に焦点を当て、外部からの観光客による付加価値の高い消費を促すことで地域経済を活性化させるトップダウン型のアプローチが不可欠であると考えています。

100人に100円の商品ではなく、1人に1万円の商品を売るような高付加価値化が重要です。

【将来の目標とビジョン】

星野リゾートの施設名が「リゾナーレ勝山」とならなかった敗北感をバネに、今後は「勝山」という地名のブランド価値を高め、国内外にその名を広めることを最大のミッションとしています。

SNS活用により外国人観光客数が大幅に増加した実績を活かし、客単価の向上と滞在時間の延長を通じて、勝山を目指して訪れる人を増やし、地域の持続的な発展に貢献していくことを目指します。